令和元年度第１回岡山市総合教育会議

日時：令和元年８月30日（金）

場所：市庁舎　第３会議室

午後３時31分　開会

○司会　定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第１回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は全員のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望があった場合は、入室を許可してよろしいでしょうか。

○市長　よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　はい、ではお願いいたします。

○司会　ありがとうございます。

それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行につきましては、招集権者であります市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしくお願いいたします。

○市長　はい。それでは、次第に沿って議事を進めます。

本日は、岡山市教育大綱において喫緊の課題として目標に掲げた「学力の向上」について取り上げ、全国学力・学習状況調査の結果や検証・取り組み状況等について報告していただき、それらを踏まえて、今後の方向性などについて議論していきたいと思います。

今日は、岡山市中学校長会の藤原会長、そして岡山市小学校長会の徳永会長にもご出席をいただいているところであります。これから幅広いご意見をお願いしたいと思います。

まずは、初めてのご出席だということもありますので、自己紹介そして自己ＰＲを、ないしは中学校長会の今の動きとか小学校長会の動きとか、せっかくの機会ですから、教育委員の皆さん方にお話をいただければと思います。

○藤原中学校長会長　失礼いたします。岡山市中学校長会の会長、藤原孝憲と申します。所属は岡山市立瀬戸中学校です。よろしくお願いいたします。

現在、岡山市の中学校長会としましては、それぞれが学校の課題を持ち寄って、どういうふうな課題解決ができるかなということを定例会などを通じて情報交換をしています。それぞれの学校の課題がたくさんありますので、共通理解を図りながら全員で当たれると

ころは当たっていくとか、個々の課題については、よく情報を知っている者が情報提供して、解決の糸口をつくっていくというふうなことをしています。

現在、岡山市教育委員会からもいろいろ課題が出てきています。大きな課題と言えば、昨年度、部活動のガイドラインについて、国からおりてきたもの、県そして市からおりてきたものを中学校長会でも協議をいたしまして、どういうようなことができるか、どういうようなことをしているかというのを協議しながら、そして情報交換しながら、よりよい部活動について、質を落とすこともなく、ただ働き方改革も含めて、どういうような形で子どもたちのためにできるかというのを協議してまいりました。今年度もさまざまな課題について同じように協議を重ねて、それぞれの実践例を協議しながら岡山市の子どもたちのために進めているところであります。

岡山市の中学校長会は県の会長の方もおられるので、県の情報もすぐ入ってきます。県の動きであったり、全国の動きであったり、岡山市の動きなどを総合的に判断しながら、情報交換しながら進めているところです。今年度、中学校長会16人が退職します。ほぼ半数近くが退職しますので、これまで先輩方が残してきてくださった中学校長会、岡山市の中学校の教育について、いかに引き継ぐかというのが今年度の私の課題で、会長が判断をして何かをするのではなくて、みんなで情報共有して意見を出し合って、意見を出し合うと、もうそれぞれ持っているもの、長ですので、自分の学校を背負って話をしますので、まとまらないことも多いんですけども、全体で協議しながら、これまでのものを引き継いでいく形、協議しながら引き継いでいくという形に今年取り組んでいます。

来年度も十何人が退職しますので、この二、三年で大きく校長会のメンバーも変わっていきます。ただ、今日の話題にもありますけども、岡山市が取り組んできたものを教諭であったり、教務であったり、教頭であったり、そして現職であったりする者が岡山市の教育を担ってきたという自負がありますので、それを次に伝えていく。そして、途絶えさせないように、もっともっと岡山市の中学校が元気になるように、子どもたちが笑顔になるように頑張れたらいいなと思って取り組んでいるところです。学力については、中学校はなかなかできていないところもありますので、今日お話をお伺いしながら、また校長会に返していって、みんなで共有して取り組んでいけたらと思っています。どうかよろしくお願いいたします。

○市長　はい、ありがとうございました。

それでは、徳永小学校長会会長、お願いいたします。

○徳永小学校長会長　はい、失礼します。岡山市小学校校長会の会長、徳永充生です。どうぞよろしくお願いします。

今、私は高島小学校へ勤務しておりますけど、私はそこが母校で、47年ぶりに母校へ帰って、今、最後の勤務をしているところであります。今、創立147年目、昨年度は市長に大変お世話になりまして、新校舎が無事完成いたしました。本当にありがとうございました。

小学校の校長会は市立が89校、そして国立が２校ということで、91人の校長が定期的に集まって議論をしているところであります。小学校と中学校は課題が大概同じであるということもあって、今年、小学校と中学校の校長会、組織を再編して、この課題は一緒になって考えようというような、そういう組織編成を行いました。それで、今いろいろ教育委員会等から課題をいただきますが、校長会は一緒にとにかく考えていく。一緒に知恵を出して、とにかく園児そして児童そして生徒のためにやっていこうということで、一丸となっていっているところであります。今日はお招きいただきまして、ありがとうございます。

○市長　はい、どうもありがとうございました。

両校長会の会長からお話をいただきましたが、課題という言葉がお二人からよく出てたと思います。今日は学力に関する問題で、両会長さんも学力に関しての課題をどういうように捉えているのか、具体的にこの後の説明の後、またお聞かせいただければというように思います。

それでは、昨年度に引き続き、ベネッセコーポレーションの西島さん、梅田さんにもご参加いただいております。

それでは、議事を進めさせていただきます。

まずは、協議事項、学力の向上、資料１について、教育長から説明をお願いします。

○教育長　はい、失礼いたします。昨年度に引き続きまして、学力の向上というテーマを取り上げていただきまして、ありがとうございます。教育大綱の柱の一つである学力の向上に関する教育課題は、教育委員会が最も重点を置いて取り組んできた課題でございます。まずは、岡山市の子どもたちの現在の学力の状況について報告をさせていただき、あわせて成果や課題、今後の取り組みなどについても少し時間をいただいて説明をさせていただこうと思います。

それでは、４枚綴りの資料が机上にありますが、最初の「学力の向上に向けて」という

資料をご覧ください。

まず、岡山市の子どもたちの現在の学力の状況、現状のところでございますが、ここについて報告いたします。

４月に行った全国学力・学習状況調査の結果を載せております。今年度から知識・活用を一体的に問う問題へと変わったため、昨年度までのＡ問題、Ｂ問題というのがなくなって、１つになって実施されました。単純に比較はできませんが、全体としては子どもたちや学校のこれまでの地道な取り組みが実を結びつつあり、よい傾向にあると考えております。教育大綱には令和２年度の目標値として、小学校51、中学校50という偏差値の数字が定められていますが、概ね目標を達成しつつあると思っております。

資料の中段に移りますが、こうした状況になりましたのは、授業に対する教員の意識が変わり、子どもたちが考え、表現する授業が定着してきたということが大きいと考えております。その結果、子どもたちの考える力や考えたことを表現する力、これが身について学力の向上につながったと考えております。

３枚目になりますが、別紙１、「成果の具体例」をご覧ください。

中段のところを詳しく説明しているものでございますけれども、教員の授業に対する意識が変化した。私がよく使う言葉ですが、教員が活躍する授業ではなくて、子どもたちが活躍する授業をしないといけないというような意識になってきている。そして、そのために他の教員の授業を見て、自分の授業に生かすということを当たり前のように思っている。以前からもあるんですが、この意識が強くなったということです。

そして、その結果、子どもが考え、表現する場面が増えた。今までは教師が説明する時間が７で、そのほかが３、これが半分半分ぐらいになっているとかというような割合の変化。それから、単語や語句を覚えて反復練習するというのではなくて、単語や語句を使って得た知識をもとに考える授業が行われている。それから、教員がまとめをするんではなくて、子どもがまとめをする、表現する。そういった授業になっているということでございます。そうしたことで、思考力・表現力が向上し、成果としてあらわれているんではないかなというふうに思っております。

ただ、課題もございます。課題はたくさんあるんですが、最も大きいのが中学校の家庭学習であると考えております。これが２枚目の別紙、「参考」と書いてあります「岡山市立中学校第３学年の経年変化に見られる課題」、これは全国調査や学力アセスの児童・生徒質問紙の結果から、本市の特徴として、一番上のグラフにありますように、学年が上が

っても平日の学習時間が増加しない。これは同じ子どもが小６のときと中１、中２、中３というふうに上がっていったときに時間がどうなっているかというのを出したグラフでございますけれども、学習時間が増加していないというようになっています。一方で、休日は学年が上がるにつれて学習時間は増加しています。

一番下のグラフにありますように、学年が上がるにつれてスマートフォン等の使用時間が増加しております。これが平日の学習時間の時間を確保できない一つの要因になっていると考えております。授業で学んだことの定着や授業時間の予習等、家庭学習は必要不可欠でございます。中学校の結果は改善すべき大きな課題と考えております。

もとの１枚目の資料に戻りますが、このような課題に対しまして、家庭学習につきましては、これまでも「家庭学習これだけは」という学校が参考とする取り組みをまとめたリーフレットを作成して周知を図っております。また、今年度から全ての小・中学校に学習支援ソフトを導入し、子どもたちの習熟度に応じたプリントを教員が容易に作成できるようになり、苦手分野の克服が図れるよう環境面を整えました。今後は活用の例を周知し、積極的な利用を促すことで、教員の働き方改革にもつなげてまいりたいと考えております。

さらに、スマートフォン等の利用時間などとの関連から、今後も引き続きご家庭に協力をいただくこともあわせて進めていきたいと考えておりまして、現在、家庭学習の充実に向けた保護者向けのリーフレットを作成しているところでございます。

以上、学力の向上に向けた、よりよい授業づくりと家庭学習の充実について説明をさせていただきました。

繰り返しになりますけども、小・中とも着実に結果がよくなってきております。これは一人一人の子どもたちが最後まで粘り強く問題に取り組んだこと、またそれを支える教員が頑張ってくれているということはもちろん、保護者や地域の皆様の支えによるものであると考えています。本市の取り組みの方向性は間違っていなかったと考えておりまして、今後もこれらの調査結果を活用しながら効果のあった取り組みを継続するとともに、新たな取り組みも考え、積極的に進めてまいりたいと考えております。

教育委員会からの報告と説明は以上でございます。

○市長　事前の打ち合わせの中で、職員の意識の変化、授業の変化ということを言われて、意識がどう変化したのか。子どもが考え、表現するというのは一体どういうことなのか。抽象的ではよくわからないんじゃないかというふうに私は申し上げました。それで、

それが昨日の話でもあったんで、余り具体のものが市民の皆さん方に提供できるところまでのものはできてなかったんですけれども、最後のページに１つ、直角三角形の面積の求め方を考える授業ということで、今までの授業のやり方がこういうように変わっていったんだと。本当はこれをやることによって、どのような効果が出たのかというところまでできればよかったんですが、とりあえずこういう資料をつくっていただきました。もしよろしければ、誰か、教育委員会の方、教育長でもいいし、ご説明いただければと思いますが。

○松岡指導課長　失礼します。指導課長です。

これは小学校の５年生で学ぶ単元です。左側はもう見ていただいたらわかるとおり、三角形の面積を求める公式は「底辺×高さ÷２」ですねと、じゃあそれを使って練習しましょうということで、子どもたちが教わったことをそのまま練習していく。これが極端な例としてイメージとして挙げさせていただいていますが、子どもは教わった公式を使うことを中心にやっている。

一方で、右側、子どもたちの考える力をつけたいというところで岡山市が進めている授業ですが、先生が投げかけたことについて、子どもたちがたくさんの反応をして、いろいろな意見を言う。たくさんの交流があって、１つの求め方、あるいはいろいろな求め方に収束していくという、一方的な授業ではなくて、子どもたちのやりとりの中で進めていく授業、こういうのを進めているという、そういうイメージでつくらせていただいているところです。

○市長　はい、ありがとうございました。

非常にいい試みだと思うんですが、それがこうやったことによって、どのように結果として変化しているのかという分析はできているんでしょうか。

○松岡指導課長　はい、指導課長です。

この授業をしたことによって、一番最初の資料に成果と課題のところにあるんですが、２段目の子どもが考え、表現する場面が増えたというところに「子どもが考え、表現することができる授業が定着」であるとか「目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりする子どもが増加」したとかという、これについては全国学力調査の学校の質問紙、それから子どもたちのアンケート調査、この結果で、例えば国語の授業で子どものアンケートで、「自分の考えを話したり書いたりする、そういう授業を受けてますか」というと、明らかにこれが向上しているようなところもあります。

ですから、授業が明らかに変化して、子どもの受けとめが変わった。そしてさらに、ここで言うＢ問題のような調査結果の偏差値でいうと、結果にもそれがあらわれているというふうに捉えているところです。

○市長　今回は後で校長会の話もお伺いをしたいと思いますけれども、そういう具体的に全てが定量的分析ができるとは思わないんですけれども、こういう授業を変えることによって具体的にどう変わったのかというのをもう少し分析をして臨んでいかないといけないんじゃないかなというように思います。

また最後に総括をさせていただきたいと思いますが、ベネッセのほうからまた資料を用意していただいております。よろしくお願いいたします。

○西島　はい、ベネッセコーポレーションの西島と申します。よろしくお願いいたします。

では、資料２のほうをご覧ください。

表紙のところですけれども、今年度の全国調査のデータをお預かりしまして、質問紙を中心に質問紙調査分析（全国との比較）、それから今回経年比較ということで３カ年を比較をしてみたものもご用意しております。それから、層別の分析と、あと一部最後に「英語」についての結果のご報告をさせていただきます。

では、１枚めくっていただきまして２ページですが、これは先ほど教育長からもありましたが、今年度変わったところになります。

Ａ・Ｂ問題というものが統合されました。また、英語については、３年に１度の予定で実施をするということで、英語４技能、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」、全てについて調査が行われましたが、「話すこと」については、コンピューターを使った関係で学校の環境によっては使えなかった学校もあり、一部実施がされておりませんので、結果としては、参考値として数値が公表されたり、あるいはされなかったりと。外部に対して一般的に公表されてるものには、この「話すこと」については公表されていないというような状況でございます。

では、質問紙のほうに入ってまいりますが、小学校のほうの学校質問紙で、全国と比較をしたものでございます。

全国より上回っている質問ということで、岡山－全国というところ、それからこの質問自体は基本的には「よく行った」、「そう思う」ということで、１番を選んだものを中心に集計をしたものになっております。もうこの数年、同じ傾向ですけれども、数多くの質

問について上回っているという状況にございます。また、今年度の特徴としては、まさに教育委員会様の方針に従って、きちんと動かれているなと思いますが、家庭学習指導に関して非常に高くなっているというようなところが見受けられます。また、同様に地域連携というところでも肯定率が高いということになっています。

単に与えられるだけではなくて、例えば62番、上から４つ目にあるような評価・指導をしっかりやっているとか、あるいは下から４つ目、60番にあるような学習方法等を具体的に指導しながら家庭学習をやっているというようなところで、また最後の59番のところ、教職員で家庭学習についての共通理解を図りながら行っているということで、非常に家庭学習の充実というのが見てとれるかなと思います。

一方で、次のページですが、今度は逆に全国より下回っている質問ということになります。

一番全体的に見て多いのが、研修・研究、あるいは指導改善の計画立案等のこれからどうしていくかというところになかなか時間が割けていないというのが現状かなというように思います。学力調査のほうの結果も上がってきており、先ほどありましたように家庭学習指導も非常に充実をしているという状況の中で、そちらに短期的なところに先生方の目が今行っている状況で、指導要領も改訂されますので、次どういうふうに指導改善をしていくのかですとか、何をインプットして授業にかえていくのかというところが、まだまだ今足りていないと。もちろん全てができない状況ですので、今は目の前のところをしっかりやってらっしゃるということかなというように思います。

したがって、このあたりの研修・研究、研さんのあたりをどうやっていくのかというところを考えていくところが、これからの伸びしろといいますか、さらにステップアップしていくポイントかなというように思います。

続きまして、中学校ですが、中学校も全体としては同様、小学校と同じような傾向にございます。全国より上回っているところは、家庭学習指導、地域連携というところが多いのですが、小学校と違うのが、家庭学習のやり方ですとか教科間の連携ですとか、そういった一歩深い家庭学習の与え方というところまで行けていないというのが中学校の特徴かなと思います。ただ、家庭学習の充実というのは、しっかりやってらっしゃるという状況です。

また、次のページですが、下回っているところになります。

これはこの数年分析をさせていただいておりますが、岡山市としては改善をしてきてい

るんですが、全国との差がなかなか縮まらないのが礼儀、授業中の私語というところかなというように思います。毎回高いところといいますか、大きな差がある状況で、なかなか改善し切れていないところかなというように思っています。

今年度の特徴としては、ＩＣＴについて全国的にはかなり活用が進んできて、タブレット等を日常の授業で使う学校も増えてきている中で、そこの差が少し出てきたのかなというように思っております。また、「補充的学習」というのが何カ所か出てくるかと思いますが、そういったところの学習の肯定率が低いというのも出てきております。

続きまして、小学校の児童質問紙になります。

児童の質問紙ですので、これも上回っているもの、下回っているもの、また同じようにしておりますが、児童質問紙、中学校の生徒質問紙ともに下回っているのはすごく少ないです。本当に生徒さん、児童の皆さん頑張っていらっしゃって、ほぼ多くの質問が全国より上回っているという状況にあります。その中でも特に上回っているところを10項目挙げているものになります。

すばらしいなと思うのは、特に一番上にありますような、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」というものに「当てはまる」というのが非常に高いというのはすばらしいですし、その他の質問も考えて全体的に見てみましても、先生と児童、あるいは児童同士で、よい関係性や学習環境、学級環境がつくられているなというように思うところでございます。「話し合い」という言葉もたくさん出ており、先ほど指導課長の方からご紹介があった授業のあり方も話し合いの中で進められていくものだと思います。指導のあり方が変わってきているということが言えるかなと思います。

次のページですが、こちらは全国より下回っている児童質問紙になります。

先ほど申しましたように、余り大きなマイナスのものはございません。一番上の6.4のマイナスのものも「時間が余った」というのが多いということは、しっかり早く解けたということでもありますし、余り気にしなくていいかなと思います。全般としては、マイナスは余りないという状況です。

それから、中学校の生徒質問紙で全国より上回っているものということで、こちらも一番上に来ておりますのが、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」というところで全国よりも大きなプラスになっております。また、２つ目の質問、「分かるまで教えてくれていると思いますか」というところで全国よりも非常に高い数値になっています。これはなかなかできないことだと思います。集団指導をせざるを得ない

学校という環境という中で、生徒さんが自分に対してわかるまで教えてくれているというように思う生徒さんが多いというのは、すばらしいことだなというように思っております。

また、今回英語があったわけですけども、英語の読む・聞く、聞きながら読みながら全体を捉えるですとか要点を捉えるというようなところがちょっと低いということがあります。英語については、最後に少し触れさせていただきます。

続きまして、生徒質問紙で全国より下回っているものというようになりますが、こちらも値としては、そんなに大きな差でマイナスではありませんし、数もそう多くないというふうな状況です。あえて申し上げますと、部活動に参加している方がやや少ないと。学習時間も少し少ないと。ＩＣＴ活用がやや少ないと。そんな形かなと思います。

以上が全国との比較、単年度の比較になりますが、次のページからは３年間を捉えて、同じ質問があったものをピックアップをしまして、増加傾向にあるのか減少傾向にあるのかというところを分析をしたものになります。上昇して下降するとか下降して上昇するというふうな形でトレンドが明確でないものは割愛をしております。

次のページを開いていただいて、13ページ、14ページをご覧いただきますと明らかなように、上昇傾向の質問はたくさんございます。一方で、下降傾向のものはほぼない、非常に少ない状況であります。それだけ先生方がこの３年間で非常にさまざまな改革をしてこられているということがおわかりいただけるかなと思います。

１つずつは触れませんが、小学校の場合は、先ほど研究・研修等が全国に比べて少ないと申し上げましたが、それでもこの３年間で相当頑張っていらっしゃるということがわかるかなと思います。また、教科以外の活動も含めて、小学校でも職場見学等も含め、さまざまなことをやっていらっしゃる状況かなと思います。幅広い面で上昇が見られるということになります。下降しているのは、明確な下降傾向にあるのが明らかなのが１つだけでした。学校外での研修と。これは目の前の児童の方たちへのご指導にしっかり力を入れていらっしゃるからこそ、なかなか時間がとれないということが言えるのかなと思います。

続いて、中学校の学校質問紙、15、16ページになります。

こちらも小学校同様、上昇傾向のものはたくさんございます。下降傾向のものは余りなかったというような状況でございました。

中学校の場合、全体をご覧いただきまして、全体的な傾向として、学校全体で検討すべきこと、動くべきことが非常に高まっているなというように思っています。地域の方との

関係ですとか学校全体ですとか小学校と一緒にですとか、個人の先生方の努力ということも当然あるとは思いますが、学校全体で動くと。教科でどうしても動きがちなところを学校全体で動くというような形に変わってきているんだろうなというように思っています。

一方、次のページになりますが、下降傾向の数は少ないです。熱意ですとか、あるいは授業のあり方を考えるということも必要かなというところがあるところです。

続きまして、次の17、18ページは、今度は児童質問紙です。

児童質問紙も傾向は同様で、上昇傾向のものがたくさんありますし、下降傾向のものは少ないというような状況にあります。

これ、先ほどから出ておりますように「話し合い」という言葉がたくさん出てきたりしておりますし、自己肯定感を高めるようなもの、一番下のほう、いじめはだめだ、人の役に立つ人間になりたい、こういったことも非常に高まってきているというようなところも、よいことかなというように思います。

ダウントレンドのものは、話し合いに関してダウントレンドのものがあるのは一つ気をつけなければいけないかなと思います。多くの小学校でこの話し合いをしていきながら授業を進めるというような手法を取り入れていらっしゃいますけれども、なかなかうまくいかないのが、さあ、話し合ってみようというような授業にしてしまうと、なかなか子どもたちもいい形で活動ができず、やはり先生方の発問をどうするか、何を問いかけるのかというところの研究をしっかりやっていかないと、児童の皆さんの自己意識としての学習効果もなかなか上がらないというところがあるかと思います。

その発問の研究も、まさに冒頭にありましたように研究・研修・研さんの中で高めていかなければならないものですので、次の新課程に向けて、もう余り時間がありませんけれども、研究・研修をいかに時間をつくってやるかというところが、これからの伸びていくポイントかなというように思います。

それから次のページですが、中学校の生徒質問紙ということになります。

こちらも同様で、上昇が非常に多いというような状況です。変化の大きさが非常に大きいものがありますが、特にすばらしいのは、「分かるまで教えてくれていると」というところあたりですね。このあたりがなかなかできない。全国でももちろん増えているんですけども、岡山市の場合は非常に大きく高く増えているというところ、こういったところはすばらしいところだなというように思っています。

それから、下降傾向のところ、これも非常に少ない。２つだけですけれども、全国の平

成31年度の結果を見ても、上は全国よりも高い値、「協力して」、「うれしかった」とかというあたりですね。「外国の人と友達になったり」というのは、もうそう差はありませんので、大きな問題はないかなというように思います。

全般を通して、非常にこの３年で先生方の指導も変わってきておりますし、生徒さんたちの自分の皆さんの学校に対するポジティブな気持ちというのが高まっているなというように思います。

次に、児童・生徒質問紙層別分析ということで、この数年やらせていただいております４層に分けての分析でございます。全教科の合計の正答数に応じて４つの層に分けたものです。

これはもう一つ一つのページは少し時間の関係で割愛をさせていただこうと思います。飛ばしていただいて、まとめとして31ページに書いておりますので、こちらをご覧いただければと思います。

４つの層に分けたときのⅠとⅡの間の差、ⅡとⅢの差、ⅢとⅣの差というところで、総括的に書かせていただいております。

小学校に関して、ⅠとⅡの差は、主体的に学ぶような意欲や行動をしているかというところが一番大きい差になっておりました。ⅡとⅢの間になりますと、定義、文章、読み方など、学習の基礎になるところが徹底されているかどうか。曖昧なまま進んでいるかどうか。このあたりの差がⅡとⅢの差であるというように言えるかと思います。ⅢとⅣの差になりますと、もちろん意欲や学び方もありますが、家庭でのコミュニケーションというのがここで初めて出てきますので、このあたりもケアが必要なところがあるかなというように思います。

それから、中学校のほうですけれども、中学校のほうはⅠとⅡの差でいきますと、非常に意識、意欲の面が強かったかなというように思います。それから、層ⅡとⅢの差になりますと、こちらも意欲、意識もありますが、主体的に学習に向かっているかですとか主体的に何か課題を解決しようとしているかというところの差がこの間にあるというようになっておりました。層ⅢとⅣの差に関しては、規範意識、人間関係というところが出てまいりますので、このあたりの解決というところも図っていかなければならないことかなというように思います。

では、最後になりますが、中学校の「英語（話すこと）」の結果についてご報告を申し上げます。

「話すこと」以外の３技能、「読むこと」、「聞くこと」、「書くこと」については公表されているんですが、実はこの「話すこと」については公表されていないデータになっております。お預かりしたデータから数字をはじき出して分析をしたものになっています。

まず、33ページですが、こちらは公開されているデータになります。

英語に関する学校質問紙ということで、学校質問紙の中で回答されているものから、英語に関するものだけを全てピックアップをしたものになっています。以上13項あるんですけれども、最初にご覧いただきたいのが右下にある太い青丸をつけているものです。

こちらの「ＡＬＴ、外国人の指導助手をどれぐらい活用していますか」ということで、下に吹き出しをつけておりますが、「ほぼ毎日」というのが全国レベルからすると非常に高いですし、右端のほうをご覧いただきますと、３番で全てが終わってますので、もう全ての学校で週に１回程度はＡＬＴが来ていると、授業に入っているというような形で、非常にＡＬＴの配備については充実をしているということが言えるかと思います。

それにひもづくような活動、例えば２段目の左側にある、青い丸をつけている「英語で伝え合う」ですとか、同じ段の一番右にありますような「英語で問答して意見を述べ合う」ですとか、59番の「コミュニケーション」、こういったものも、そう高いとは言えませんけれども、比較的全体としては全国や県とそう差はない状況かと思います。

一方で、今申し上げなかったものについては、全国に比べると非常に実施状況が高くない状況にあるかなと思います。特に注目していただきたいのが、58番、左側にありますが、「書く」です。それから、右上のほうに行きますが、56番も「書く活動」です。岡山県に比べても、ちょっと低い状況にあります。それに近いんですけども、55番、「まとまった内容を英語で発表する言語活動」、これも低いです。ＡＬＴが来て対話の活動はされていますが、発表の活動はなかなか余り充実はしていないと。発表は原稿を書くことから始めて、書いた原稿に基づいて発表するということが一般的な指導の流れになりますので、書くというところに指導が余り時間がとれていないのかなというふうに拝見をしました。

そんな中、その「話すこと」に関する結果がどうだったかというのが次のページになります。

岡山市様のデータは、ローデータ（生データ）をお預かりしまして集計をさせていただきました。全国のデータは、国立教育政策研究所から「中学校英語に関する報告書」とい

うものが出ていますので、そこから拾った数字になります。これ、引き算をしまして、一番右になりますが、正答計のところ、１の１が8.4%プラス、１の３が2.3%プラスということで、非常に高いプラスになっています。

この２つの問題にまず着目をしていただきますと、何が高かったかといいますと、黄色い２番の7.2%とありますが、これは誕生日がいつかというのを答える問題なんですが、正答はちゃんと文で答えるのが正答、「Ｈｅｒ　ｂｉｒｔｈｄａｙ　ｉｓ　Ｊｕｌｙ　２ｎｄ．」というのが正答ですが、この7.2%全国よりもプラスになっているのは、「Ｊｕｌｙ　２ｎｄ．」だけを答えた生徒さんです。同様に、１の(3)も「Ｈｅ　ｃｏｍｅｓ　ｔｏ　ｓｃｈｏｏｌ　ｂｙ　ｂｕｓ．」と答えるべきところを「Ｂｙ　ｂｕｓ．」とだけ答えた生徒さんが全国よりプラス3.0%いらっしゃると。この辺、とにかく何とか英語を使って伝えよう、コミュニケーションをしようという意欲が非常に高いというように言っていいと思うんです。これはまさにＡＬＴをたくさん配備されていて、そういった活動を高められている結果がしっかり出ているというふうに言えると思います。

同様に、１の(2)番についても、全体の正答率は全国より低いんですけども、一番下に99という累計があります。これは途中まで答えていて、答えが完結していないものがここのパーセンテージです。途中まで答えようと頑張っている生徒さんがこれだけいるということで、積極的に英語でコミュニケーションをとろうという意欲がすごく高まっているということが言えると思います。

そのような状況の中で、先ほどの指導の状況をご覧いただくと、文でしっかり答えることができていないということが一つ課題だというように言えると思います。しっかり書く活動がなかなかできていないので、とにかく口頭で何とかしようと。それはできているんですけども、文をしっかり書けるようになるですとか、そういうところが今できていないと。つまり４技能のバランスが少し足りていないかなと。書くも含めて、しっかり指導していく必要があるかなというように思います。

これはどういう生徒を育てたいかということだと思いますが、観光地に行って、観光旅行でちょっとコミュニケーションをとれればいいやということであれば今のままでいいかもしれませんし、もう少ししっかり交渉を含めて英語でコミュニケーションができるような生徒を育てたいということになれば、もう少し４技能のバランスを考え直し、どういう達成目標でそれぞれの技能を高めていくかということを恐らく学校等に任せてもなかなか難しい面がありますので、教育委員会様主導でこの指導をどうしていくかということは検

討していく余地があるかなというように思いました。これは３年に１回の調査になりますので、少し時間をいただきましてご説明いたしました。長くなりまして申し訳ありません。

以上になります。

○市長　はい、ありがとうございました。

最初に教育長が説明された、この「学力向上に向けて」の中に英語は入っていません。これ、教育大綱の中では英語がなかったので、この中に入っていないと思いますが、その実態について教育委員会のほうでちょっと補足していただけますか。

○松岡指導課長　はい、失礼します。指導課長です。

３年に１回行われる英語については、今年度初めて全国で実施されたというところですが、先ほど国語、数学、偏差値で表のほうに載っていましたが、同じように偏差値でお伝えしますと、中３の英語については今年度49という偏差値でした。全国平均より若干低いという状況でございました。

○市長　はい、ありがとうございました。

それでは、意見をお願いしたいと思いますが、まずは今の教育長の話もありますし、ベネッセの西島さんの話もあるんですが、それらを踏まえるといいますか、イメージをしながら校長会のほうで今の学力についてのコメントを少しいただきたいというように思います。それから、教育委員の皆さん方のご意見を伺いたいと思います。

○藤原中学校長会長　失礼します。中学校長会です。

先ほどのお話の中で、考えたりする授業のほうがというところで関連づけるかどうかわかりませんけども、以前は無解答率がとても高かったことがあります。ただ、それが本校でいえば、無解答率はだんだん減少しています。本当に最後の問題でちょっと時間がなかったんだろう、難しいんだろうなというのはありますけども、自分で考えていることを書くという習慣であったり、表現したいという気持ちが育っているのかなと思っています。

そういう意味で、学力の中で指導課が出されている「授業これだけは」の中の「学び合う」というところの中学校の授業の中で、中学校の授業って、伝えて、ただ聞いて書くだけの授業が多かったんですけども、そのあたりが学びプロジェクトの中で、幼・小・中の連携の中で授業を見合うとか、それから育てたい子ども像を共通にするとかというときに、ただ一方的に教えてしまうんでは、それはもう身につかないということがだんだんもう中学校の教員の中でも当たり前というか、なっているのかな。なので、学び合う、隣同

士で話をする時間であったり、４人ぐらいの班でするとか生活班の６人でするとか、みんなの意見を出し合うとかという学び合うという場面は、いろんなところで、どの授業もほぼ。

中学校長会としても授業改善をしないといけないというのを常に共通理解をしていますので、時間があるときには、みんなの先生方の授業を見に行こうと。もうちょっとでも、１時間いて、その授業をというのはもちろん理想なんですが、なかなかできないときには授業の導入のところをまず見よう。次には、その展開のところを見る。まとめのところを見る。部分部分ですけど、それぞれ、あっ、こういう導入ってよかったなとか、この人のこんなのあったよ、おもしろかったよとか、学び合いの場面ではこういうような資料を使ってしてたよとかというようなことを情報発信を見た後に言えるところで言うことで、先生方にもその授業のあり方というのが、ただ教えていくんではなくて、学び合うことを授業に取り入れなければいけないという意識が高まっているのかなと。そこが無解答率につながっているのかな、粘り強く考えていくということにもつながっていくのかなと思っています。計として統計とか出していないので、もう感覚的なものになりますけども、変化としてはすごく大きいかなと。

もう一個大きいのは、先ほどベネッセのお話が特別支援に関する視点が減っているよという数値があったんですが、平成２７、２８年頃に特別支援の視点を持って視覚化であるとか目当てを持って学びの流れをきちんと子どもたちが把握しながらしていかないと、授業の中で子どもたちが迷子になりながら授業をするような状況にしてはいけない。どういう方向で、こういう流れの中で子どもたちが学ぶんだというところをきちんと出していかないといけないなという、その特別支援の視点を持った授業を展開するというのがこの統計の前ぐらいにどんどん広がっていったり、特別支援の課題が大きい子、生徒指導も含めて、どうやったら授業の中で、私語が多いのはありましたけども、私語が多いからいけないのか、私語が多い子はいろんな意見を出し合うのかというのはまたいろいろ私個人的にはありますが、特別支援の視点を持った授業づくりというのは、教員がもう積極的にし合ったり、それから授業を見に行くという機会を増やしてますので、ああ、こういうようなことをすれば、特に中学校の場合は、自分の授業をしたときにそのクラスはなかなか落ちつかないのに、この人のした授業は落ちついていると。何が違うのかなといった視点で見たときに、その特別支援の視点を持った見える化であったり、授業の流れをつくっているというところができてきて、そういうようなものが定着しつつあるので、特にもう意識も

なく、特別支援という視点でなくてやっている、うちの職員を見た場合は、なのかなと思っています。

それから、研修については、もっと行かないといけないけど、なかなか部活があったり日々のことがあるので難しいなと思っていますが、学力の分でしていくと、一つ成果としては、そういうようなものが中学校の教諭の中に定着しつつあったり、授業改善で子どもたちを育てていこうという。以前は生徒指導が大変なときもありましたので、子どもたちが教室の中に入っている状態で、どのように授業をつくっていって、授業の中で子どもたちを育てるか、生徒指導をしていくかという部分がだんだんコンセンサスになっていって、一つこういう形で成果が出たのかなと思っています。

本校でいえば、瀬戸町時代にＧＧＳ（地球規模課題解決に資する国際協力プログラム）でオーストラリアの高校と交流をしているというのがあって、それがまだ続いています。去年学生さんが20人ほど来られて、ホームステイをしながらしています。外国の方と話をするというのは、数字は忘れましたけども、岡山市の平均は高いというのがありましたので、触れ合う機会がいっぱいあると子どもたちは積極的にしていくんだろうなというように思います。なので、授業の中で学び合うとか学びから逃げなくていいとか粘り強くするというところを保・幼・小・中の連携であったり地域の支えであったりする中で、できているのかなと思っています。すみません。データはありませんけども、感覚的ですが、ありがとうございました。

〇市長　はい、では徳永さん、お願いします。

〇徳永小学校長会長　はい、小学校です。

教育長が説明された、この１ページ目の真ん中のところで、ちょっと具体的にお話しさせていただきますけど、教員の授業に対する意識が変化した、じゃあ何があったんだろうかというところだと思いますけど、これはもう教育委員会のほうが岡山型一貫教育ということで、中学校区をもう一つの単位として、どういうふうにそこにいろいろ保育園、幼稚園、小学校、中学校で一緒にというところで、「子どもが輝く学びプロジェクト」ということで４年間かけてそれぞれやっていこうという、この一つのシステムがもう今定着していると思います。そういうことで、中学校区の研究主任、教務主任、そのレベルの者が一堂に会して、そして話をする。そして、それぞれ学校へいいところを持ち帰って、どこどこがしているから、こうしようということで、それぞれの小学校が同じように合わせると、今度は中学校、同じ中学校へ行くので、いい好循環になるんではないかと考えており

ます。

それで、今授業の中で子どもが考え、表現する授業時間が増加したと教育長さんが言われました。このあたりで、子どもたちが自分で考える時間をとにかく確保する。先生がこれ、わかる人、はいではなくて、さあ、じゃあそれぞれで考えてみましょう。先ほどの算数の問題がありましたけど、そう言って自分で考える時間にして、そして机間巡視を先生がしながら、指導、アドバイスをしながら、個々に、そしてそれをすぐ全体に広げる場合もありますけど、少人数のグループでもう一度お互いに情報交換し合う。少人数だったら言える子どももいます、全体では言えなくても。そして、グループの意見を全体に言うと。

言うときも、ただ言うんではなくて、見える化で、こういうふうなシートに書いて、そしてどこどこのグループはと、ここにこうやって黒板に書いていくわけですね。１グループ、２グループとか書いていきます。そして、それぞれ先ほどの子どもたちが言ったこの面積であったり、これはこういうような考えがありますというところで、最後まとめたり考えるときに、ああ、自分は最初はこう思っていたけど、どこどこのグループとか誰々の考えを見て、こういうように私は変えましたとかというのが最終的にまとめで、それが深い学びにつながっていくんではないかなと考えていますので、もう今まさに教育委員会、学校が一体となってやっている「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」、それから岡山型一貫教育、そういったところが定着しつつあるんではないかなと考えています。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

教育委員の皆さん方、また西島さん、梅田さんも一緒に入っていただいて、今までの説明に対してご質問でも結構ですし、自分はこういうように考えるということでも結構ですし、何でも結構ですから、是非お願いしたいと思います。

見合わないで、じゃあ石井さんから行きますか。

○石井教育委員　失礼します。学力向上について成果あるいは改善が図られているということを一保護者あるいは市民として見たときに、非常にうれしく思うという状況にある。これからまだまだ継続してやっていかなきゃいけないと思いますけども、その過程の中でうれしく思うというところが一番です。

その中で、この改善につながる入り口は何があったかというところですけれども、まず教育大綱の中で重要課題を２つに絞り込んだという部分がこれに取り組めた入り口とし

て、そこがあって、それがまた教育委員会あるいは学校で理解をしてもらえる、あるいは家庭で理解してもらえるようにコミュニケーションが図られていったということがまずあったんではないかなというように推測をしております。今後については、徹底と継続というように書かれていますけども、地道にそのことを続けていくということが必要かなというように私も感じております。

あと、ベネッセさんの分析の中で層別の分析を拝見しますと、各層において打ち手となるようなことというのは、かなり違っているなというようにも思ってまして、理想的に言えば、その個人個人に合わせた、カスタマイズされた打ち手を打っていただけるのが一番効果が出るんではないかなというように思うんですけども、一方で働き方改革とか効率的にやっていくというところを、どういうようにそこをやっていけばいいんだろうかというように思っております。

あと、今後、英語も含めて、あるいはプログラミングとかそういう部分も入ってくるので、すごく差がつきやすい科目というのも入ってくる中で、よりそれぞれに合わせた教育が必要となってきているんではないかなというように感じております。

以上です。

○市長　ありがとうございました。

どうでしょうか。

はい、じゃあ妹尾さん、お願いします。

○妹尾教育委員　先ほどの石井委員と同じく、改善を見たというところは素直に喜びたいなというように思い、皆さんのご尽力に敬意を表します。

感想めいたことになってしまうんですけれども、学校教育の一つの大きな目的というのが、この層に分けるというのもどうかという問題もあるんですが、それは置いといて、Ⅳ層の人をⅢ層に引き上げるという、あるいはⅢ層の人をⅡ層に引き上げていくというのが大きな目的であることは間違いなくて、授業の面と家庭学習の面、それぞれ思ったことを申し上げますと、先ほど市長のほうからもちょっと突っ込みというか、そもそもこういう授業がどういうメカニズムで成果を上げているのかというところもあるんですけれども、こういった生徒の主体性というのか、力を引き出すような授業というのは一つ理想的な授業だとは思いますけれども、その一方できっと教員の力量というのが非常に要求されることなのかなと思ってまして、その教員の側の層の問題が今後こういう理想的な授業ができていくための育成というのか、そのあたりが一つ大きな課題なのかなと。

それに絡むので、先ほどちょっと石井委員も言われましたけども、働き方改革とそこがどのように絡んでいくのかというのが今後大きな課題になってくるのかなと思いました。

あと、家庭学習の面なんですけれども、先ほどのベネッセさんの資料の31ページを見ますと、結局Ⅳ層からⅢ層の違いというのは、家庭でのコミュニケーションだとか、あるいは問題に向かう意欲だとか、そういったところが大きな課題だというようにされていて、その一方で学校質問紙では、例えば中学校なんかだと割と家庭学習指導について非常に良好な回答結果になっているわけですね。ここのギャップって、果たして何なのかなというのも思いました。個々の家庭のいろんな子どもの貧困問題だとか、そういったところとの絡みもあって、教育委員会だけで問題が完結するものではもちろんなくて、そのあたりの全体的な取り組みというのも必要になってくるのかなという、課題は非常に大きいなというのが浮かび上がっているのかなというように思いました。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

とりあえず、じゃあ一通り教育委員の皆さん方からご意見を伺って、もう一度という話をさせていただければと思いますが。

はい。

○片山教育委員　失礼いたします。私も今回学力が無事に全て良好に推移したということで、非常に保護者の一人としてもありがたいなと思いますし、先生方のご尽力あってのことと思います。

一点は、全体的に標準といいますか、50という偏差値のところまで上がってきたところで、先ほどの層に分けられている点とも関連があるんですが、散らばり具合といいますのか、その偏差値のあたりに等しく同じような得点が散らばっているのか。差として、最小値というか、最高点と最低点の差というのが広がってきているのか、縮まってきているのか。そのあたりの偏差値の50とか51というところに上がってきたところの質がどのように変化してきているのか、あるいは変化してきていないのか。そのあたりももう少し教えていただければありがたいなというように思いました。

そうすると、そのあたりの先ほどの層によって、どのような、それこそ打ち手が違ってくるのかというようなことをおっしゃっていましたけれども、全てにカスタマイズすることは難しいとは思うんですけれども、それぞれの子どもたちが自ら先ほどの輝けるという言葉があったかと思うんですけれども、自分が意欲を持って学びに取り組むということが

非常に重要だということが、層のところの打ち手の特徴みたいなところにも、意欲とか学びに向かう意識とか学びに向かう意欲とか主体性というところにかかわってくるので、そういう個別のそれこそ幾つかの群に分けて、それぞれに目標を持って自分がクリアできるという課題の中で達成感を持って一人一人が取り組めると、また学びに向かう意欲というのは高まっていくのかなというように思いました。

特に岡山市としては、小学校も中学校も先生が非常によく自分のことを理解してくれているというような数値が高いので、そういったところ、すごく個別に子どもたちを見てくださっているという点もとてもありがたいなと思います。そういう信頼感のある先生が、少し思春期に入ってきて家庭ではなかなか親の言うことは聞かなくても、そういう信頼している先生だからこそ言ってくださったり、勉強を教えてくださるプロが言われると、自分もやってみよう、そして点が自分の中でいいようにはね返ってくるとやる気につながるということで、主体性に働きかける好循環というのが生まれてきたら、さらに家庭学習への意欲にもつながっていくのかなというように思いました。

それからもう一点、スマホのことなんですけれども、家庭学習が中学校になって下がってしまうというのは、一つにはつけてくださっていた資料の１の２枚目のところに、一番下、「普段、１日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」というところで見ていきますと、どうも中学校１年生になって初めてスマホを持たせてもらっているということがもうわかると思うんですね。小学生までよりも歴然と増えてくるのは、やはりスマホを持つ。スマホを持つということによって仲間とつながるツールができて、それはもう思春期の子どもにとって、同世代の仲間とつながっていくツールを持ってつながるというのはすごく発達的にはきっといいことだろうし、仲間を求めている自分たちだからこそ共有したいということが満たされる、いい関係のツールに本人たちはなっている部分もあるかもしれないけれども、それが一方で学習を阻害したり、いじめの原因になったりというところで、いい面ばかりじゃなくて、悪い面がすごくクローズアップしてきてしまっているのかなというように思います。

このスマホによって学習時間が減るということで、そのスマホ対策ということが今後の課題になろうかと思うんですけれども、私はスマホ対策ということに関して、時間を何時間に設定するとかゲームの時間を設定するというのも一つあるかと思うんですけれども、子どもが自分からスマホに頼り切らない人間関係づくりをいいなと思えること、スマホで何か物を介してするよりも直接のほうがいいやと思える体験、そういったものが学校の集

団生活の中で蓄積していただけることが、一つスマホを自分で自制する力とか、もっとよりよく時間を使うためにはどうしたらいいのかというのを主体的に考えていく、そんな力につながっていくことは難しいんだろうかと、そんなことを今回いろいろと資料を拝見する中で思った次第です。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

この最初に言われた学力の結果の分布図みたいなものというのはあるでしょうけれども、それが全国比較とどうなっているかとかというのは整理できてます？

はい、じゃあお願いします。

○松岡指導課長　はい、失礼します。指導課長です。

これは全国の都道府県のそれぞれの差もだんだん平準化というか、近づいてきているんですが、岡山市内の子どもたちの散らばりも少しずつ真ん中に寄っていっているという、全体的には。それに伴って学力が向上してきているという傾向はございます。

以上です。

○市長　正規分布で実際上の幅が狭くなってきている。これは全国と比べると、どんな感じなんですか。

○松岡指導課長　全国と比べると、その真ん中に集まっている度合いが全国より若干岡山市のほうが早くまとまってきているので、少しずつ全国平均に近づいてきているという状況です。

○市長　でも、層のⅣがなくなってるというのは、悪いことではないですね。

はい、わかりました。ありがとうございました。

じゃあ、藤原さん、はい。

○藤原教育委員　今年の結果を見せていただいて、岡山らしさがだんだん出てきているのかな。この即効性で、すぐに成績を上げるやり方もないわけではないと思います。でも、それは本当の学力にはつながらないということを現場の先生方がよく知っておられるので、本当に地道な指導改善であるとか授業改善であるとか意識改革に持っていったことが、少しずつじわじわっと目に見えてきたかなと思ってます。

そんな中で、経年変化の学校質問紙で、これが象徴してるかなと思ったのは、これは15ページですね。中学校のほうで、一番上のところで「校長先生は、校内の授業をどの程度見て回っているか」、この学力状況調査が始まってから多分質問紙ってあったと思うん

ですが、全然びくともしなかったんですね、特に中学校の数字が。それがこの３年間、こんなふうに上がってきて、全国との平均もこんなふうになってきた。これは総合教育会議の効果かなというのを感じてます。なぜなら、３年間で何回も現場の校長会の会長さんがここに来られるんですよね。現場のことも私たちも知ることになるし、保護者や市民の願いも現場が知ることになって、それが功を奏してこの数字に上がってきたかなと。

それから、授業改善は多分学校で組織で取り組まないと効果が出ないと思うんですが、それをいち早く校長先生方が温度を感じられたり必要性を感じられたりしたことが、これにつながっているのかな。小学校はもともと少しずつ伸びてきてたんですが、中学校現場のこの伸びはそういうことかなと。もし時間があれば現場の先生の取り組みの内容を聞きたいところではありますが、それを思いました。

それからもう一つ、そのⅣ層のところで、確かに本当にⅢ層とⅣ層のところでちょっと分かれているところが幾つかあります。それが学校でできることと、家庭でしないといけないこと、地域で取り組まないといけないこと、たくさんあると思うんですが、まだまだ学校でできるかなと思ったことは、層の大きいほうの層の人は、その教科が役に立つということを思ってないんですよね。割と成績がいい人は、上層の人は算数や数学や国語や英語が役に立つという、そういう気持ちを持ってる。でも、Ⅲ層、Ⅳ層になるに従って、その教科が役に立つと思ってない。これはやはり学校教育の中ですることが、まあ家庭でもしないといけないと思うんです。大きいと思うんですね。

それからもう一つは、Ⅳ層の人はやはり規範意識が随分低い気がします。だから、この辺は家庭とも協力をしながらしないといけない。それから一方で、その勉強がおもしろくないと思ってる人にさっきから出てる学び合うことは有効に働くのかなと。

例えば、この学力状況調査、ぱらぱらとですけど問題を見せていただいたら、やはり良問なんですよね。良問でさらに、でも解答は本当に絶対的な正解かどうかなというのをさっきも待合のときに教育委員で話をした。例えば、英語のピクトグラムを使って学校の標識をつくるとして、どっちの絵がいいか。ここがさっきベネッセさんが分析された書く力がないというところの一番大きな配点のところだと思うんですね、25字で書く。それまでは書くところは単語だけ書く。そしたら、これを学力が高い人、低い人も見て考えを述べることはできる。でも、その根拠を示して、さらに英語の力、英作文の力にまで持っていくといったら、やはり距離はあると思うんです。

でも、しっかり、これ、例えば今回から入った英語で、平均気温もグラフであらわれた

中を読み取って英語で答えると。英語で読み取る。だから、昔のＡ問題、Ｂ問題で一緒になったといっても、やはりＢに近いような感じがするので、ここから先、学力を伸ばすとしたら、近い地点で、例えば何時間勉強するとか宿題をするとかということではなくて、本当に役に立って、おもしろさがここまであるということを学校現場が工夫したり、教育委員会がその工夫の手だてを考えること、その域に行くんじゃないかなという気がしております。感想めいてます。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

西島さん、岡山市の取り組み及び今の委員の先生方の話を聞いて、何かございますか。

○西島　失礼します。先ほど妹尾委員のほうから家庭学習についてのご指摘があったかと思います。家庭学習は学校質問紙で見ても充実をしてきていると、ただ実態としてどうなのかということだと思うんですが、これは先ほども少し触れたんですが、６ページの学校質問紙の全国との比較のところをご覧いただきますと、家庭学習、上から行きますと、77、75のあたりは、ちゃんと宿題を与えました、よく行えましたということが出ていたりしますけれども、結局与えてもできない子がいっぱいいるわけですので、そこのケアをどうするかが問題で、１つ戻っていただいて小学校のほうをご覧いただきますと、一番下、59番、「教職員で共通理解を図りましたか」ですとか、下から４つ目、60番、「家庭学習の学習方法等を具体例を挙げながら教えていますか」ということで、もう少しケアできる面があると思うんです。

特に中学校の場合、教科がたくさんありますので、最近いろんな学校で取り組み始めているのが、教科間で何曜日は何の宿題を出すというふうな形でちゃんと調整をして、できる量をちゃんとやりましょうと。どの教科も自由に出してしまうと、なかなか１日、２日じゃ終わらないという宿題になってしまうことがありますので、そこは学校で共通理解を図りながら、ちゃんと子どもたちがやれたというふうな実感を持てるような宿題の出し方をしましょうということをやっているところも増えてきています。そういった形で、もう少し宿題の出し方のケアが必要なのかなというふうに感じました。

それから、教員の力量というお話もありました。これも先ほど資料の中でも触れましたが、今現在はなかなか研修や研究に時間が割けていないというのが実態だというふうに見ていいかなと思います。そこをいかに効率的にやっていくかということですとか、なかなか個人では動きにくいところもありますので、これも全体の時間の中で難しいんですけど

も、月の中で第何、何曜日はこの時間帯は全ての学校で授業をとめて、この２時間で学校間で集まって協議をするような研修の時間を決めるとか、そういったことをやっていらっしゃる自治体もあります。全体としての工夫といいますか、教育委員会としての方針決めの中でのそういったインプットに使える時間をつくってあげるということもできる可能性はあるかなというように思っています。

以上です。

○市長　教育長、何かございますか。

○教育長　はい、ありがとうございます。私が一番大切なのは、教員と子どもの人間関係だと思います。そのことで今回のを見ても本当にいい数字が出ています。子どもが本当に先生はいいところを見てくれているんだなという、安心して信頼して学校に行っているということがこの岡山のいいところだということを確信した次第なんですが、これが成績の向上にもつながっているんだろうなというように思います。

この教育大綱ができて、学校にとにかくしっかり出ていけという市長さんからのお話もあって、大体そうはいっても、なかなか全部が全部の学校には行けないんですけども、行かせていただいています。大体127校あるうちの４分の１ぐらいは毎年行っているかなと思うんですが、年によって物すごく成績のばらつきがある学校の校長先生に聞くと、実はこの学年は少し学年が低いときに学級崩壊があったんですよということをよく言われるんですね。見事にそれがあらわれてしまうんですね。ということは、今はいい傾向なんですが、これからも本当に学級崩壊にならないように、しっかり先生が子どもに寄り添って、落ちついた学校生活を送れるようにしていくということが大切なのかなと。

そのためには、実は私は中学校は今本当に子どもとカウンセリングマインドでつき合っている先生がとても多いと思うんですね。小学校の高学年もそうですが、低学年の１年生や２年生に対して本当にカウンセリングマインドでいいのだろうかというのをずっと思ってます。というのは、まだまだいろんな規範意識とか、そういったことがまだ未熟な低学年に対して、自分で考えなさいねとか、こうしたほうがいいですよねとかというふうなことを子どもに任せる方法は、私は余りよくないんじゃないかなと。やはりこれはこうですよ、こうしなさいよということをきっちり教えていくということが、この発達段階では大切なんではないかなということを思っていて、そこらあたりはまた校長会の皆さんと一緒に考えていかないといけないところだなというように思います。

それから、今本当に成績が向上しているということはあるんですが、今私が学校現場へ

出ていくと思うのは、本当に若手の教員ばかりになってきました。昔だったら、もう考えられない30代の前半で学年主任をしないといけないとかというような学年団もございます。そういった若手の教員を育成していくと。しかも本当に高いレベルで育成していかないといけないということは物すごく大きな課題で、これにはもちろんＯＪＴもありますが、教育センターの役割というのも非常に大きくなっているのかなということも考えています。

それから、ちょっと今日の話の中にも出てきましたけども、特別支援の視点、特別支援教育の視点というのを特別支援学級の子どもだけじゃなくて、当然通常の学級の子どもにも応じて特別支援の視点というのを、これはまた詳しく説明すると長くなるので、また別の機会に譲りますけども、そういった視点等を取り入れた授業づくりそれから教育課程づくり、そういったことも必要なのかなということを改めて思った次第です。

本当に改めて思うのは、市長さんのほうから大きな２つの課題をぽんと与えてくださって、これに向かって教育委員会も学校も一丸となって取り組んできている、その成果が少しずつあらわれているんだなということを痛感した次第です。本当にありがたく思っております。

○市長　よろしいでしょうか。何か補足のご意見があれば、お願いしたいと思いますが。

ずっと携わってた岡林さん、何かありますか。急に振って悪いけど、彼なんかも中心にやってましたから。

○岡林教育次長　私、今日すごく印象に残ったのは、ベネッセの根拠のある数字でもって岡山市の教育を分析していただいたというのが非常に勉強になりまして、今後こんなことをやっていかなければいけないのかなという、特に家庭学習をどう切り込んでいくかというヒントもいただいたのかなというように思っています。大きく学校が変わっているのは事実だろうと思っているんですが、年度ごとに評価をして、我々の事業を評価して、そして改善すべき点は改善する。学校にも先生方にもある程度刺激を与えながら、より高みを目指していく。忘れてはならんのは、最初市長にご指摘いただいた、こんな授業をやって子どもがこう変わったという、何をもってそう言うのか。それから、そこから先にどんな子どもを我々は育てていかなければいけないのかということを突き詰めていきたいなと、そんな感想を持ちました。

○市長　ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

じゃあ、そろそろ締めさせていただきたいと思いますが、ちょっと私も意見を言わさせていただきたいと思います。

実は先日、芥子山の小学校に行きました。そしたら、校長室に入ると教育大綱が張られてるんですよ。そこで目標値が書いてあって、私が行ったから張ったのかなと一瞬思ったんですが、校長さんは全くそういう意識はなくて、これを見て我々意識を高めているんですよという話がありました。非常に感激をして、一つの方向に向かって先生方が動いているなという感じが非常に強かったんですけども、それが学力調査の結果にもちろん結びついてますし、それから今、岡林さんからも話がありましたように、西島さんの今日の調査結果、いろんな分析をしていただきました。岡山市と全国との比較、そして岡山市の経年変化、岡山市の先生方等々の経年変化、全体としてすばらしい流れになっている。

特に私がいいなと思ったのは、わからないところまで教えていくというところがすごい数値が上がってきている。それはもう先生方の努力以外にはないわけでありますから、その動きについては本当にありがたいと思いますし、これからも続けていっていただきたいというように思います。

ここから苦言なんですけども、教育というのは非常に重要ですよね。これはまた縦を見ていくと江戸時代、明治時代、戦前教育、戦後教育、いろいろと批判、それぞれについての問題点はあるものの、いろいろ変わってきました。それによって出てきている、子どもたち、大人のスタンスは相当変わってきている。国によって、教育によって、大きくその考え方が変わるわけであります。そういう面では、教育というのは国の基本であるというのは、そういう事実を見ても明らかなんだと思うんです。じゃあ、それにどういうふうに力を注いでいくか。今この数年間、教育長のご努力もあって、私、今度初めて所信表明で９月の頭にやるんですけど、菅野さんの名前を出そうと、よくやってくれたというように言おうかと思ってるんです。

そういう面で、いい方向になることは間違いないんですが、ただ私は教員の中のワードと市民のワードは違う。今日の話の中でも、「学び合いの場」、わかったような、わからないような表現になってる。「寄り添っていく」、これも同じなんですね。いや、感覚的には非常にわかりますよ。よく出てきている「考え、表現する」、これもわかるんですけど、じゃあ一体何を言ってんだと。具体的に子どもたちがこれによって何を具体にどう、表現って一体何をしてるんだというところは、私市民の一人として、先生のワードではわからないことがすごいあるんですね。

今回も考えて、お互いが数式なら数式だけを覚えて問題を解くんじゃなくて、どうしてそういう数式が出てきたかということを考えていく。じゃあ、それを具体的に出してみてくださいというんで、直角三角形の面積の出し方というので出てきた。こうなっていくと、一般の人もわかっていく。だから、教員が教員のクローズなシステムの中に入っていくんじゃなくて、よりそれを外に出していくという努力をしていただきたいなというように思うんです。それをすることによって、家庭学習と教員の学習もよりリンクがとれるんではないかなというような気がするんです。

したがって、具体的にこういうやり方をしたから今回の結果はこうなったという。比較的、西島さんに出していただいたやつは、わかりやすい。こういうことを見ていくと、市民も、ああ、そうかというふうにわかりやすいんですけど、どうしても先生方が出してくるものについては、一般市民ってわかりづらいというところがあるんですね。だから、そこを是非整理してもらって、どんどん市民と対話をしていく、県民と対話をしていくという構図をとってもらいたいなというように思います。

今までのこの数年間の動きというのは、私は顕著だろうというように思うところでありますが、常に先生も外を向いて、これからも議論をしていただきたいというのが私の希望であります。

はい、以上でございます。よろしいでしょうか。

また校長会の皆さん方とは十分議論させていただきたいと思いますが、じゃあとりあえずマイクは司会に事務局にお返しします。

○司会　ありがとうございました。次回の会議は改めて通知をさせていただきます。

以上で令和元年度第１回総合教育会議を閉会させていただきたいと思います。

本日はどうもお疲れさまでした。

午後４時55分　閉会